

滋賀・西河原遺跡

にしがわら

- 1 所在地 滋賀県野洲郡中主町大字西河原
- 2 調査期間 第一〇次調査 二〇〇二年(平14) 九月～一〇月
- 3 発掘機関 中主町教育委員会
- 4 調査担当者 徳網克己
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(近江八幡)

西河原遺跡は琵琶湖東岸に位置し、野洲川が形成した氾濫原の自然堤防上に立地する遺跡である。これまでも古代から近世の多数

の遺構・遺物を検出しており、一九九一年度に行なわれた第三次調査では、野洲郡馬道里長へ宛てた郡符木簡が出土している(本誌第一四号)。

今回の調査は個人住宅建設に伴うものである。検出した遺構は、平安時代前期

の区画溝と掘立柱建物の柱穴である。区画溝は幅〇・七～一・八m 深さ〇・四mを測り、溝内には護岸用の板材や杭が一部残存していた。

木簡はこの区画溝から二点出土した。溝内からはこの他に、九世紀から一〇世紀前半の回転台整形土師器碗、灰釉陶器、黒色土器碗、須恵器、土錘、木製品(斎串・曲物ほか)、墨書土器(「佐」)「爪」

「兆」が出土している。

8 木簡の积文・内容

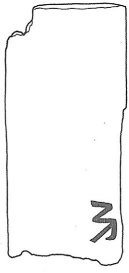
- (1)   安今成 (180)×24×6 081
- (2)   (77)×(35)×3 081

(1)(2)は表裏に文字が認められるが、ともに裏面は不鮮明である。

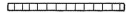
(1)の「安今成」は人名であろう。安氏は野洲郡の有力豪族で、近淡海安国造Ⅱ安直氏の流れをくむ一族であろう。(2)は表面に明瞭な墨痕を残すが、欠損のため釈読できない。

(徳網克己)

2002年出土の木簡



(2)



(2) 表



(1)



(1) 表